

## 初春の群青

晴れの日がぐんと増え、「立春」という言葉そのままに、ちょっと高揚した気持ちで、眺めの良いところへ登りたくなる2月。風に削られ、陽光で磨かれた雪は、金属の爪が食い込んだり離れたりするたび、「キィ、キュー」とオモチャのような、間の抜けたため息をもらします。

気がつくと、旭岳登山道の斜面のあちこちを、さまざまな人種や装備(スキヤー、スノーボーダー、冬山登山)の人々が黙々と登っています。山

風と陽光で磨かれ輝く雪面  
旭岳姿見の第一展望台付近  
(昨年2月)



Nature Column (ネーチャーコラム)  
自然ガイドなどで活躍する人々をリレーしています。

頂に近づくにつれて、それぞれの進路が接近し、交差したり切り返したり…。高い

雲の上からかたひじつについて眺めおろしたら、上へ上へと向かう(ユキムシそっくりな)衝動が描く幾本もの点線に、きっと笑いがこみあげてくるでしょう。

春に向かって日の長さがぐんと伸びるせいなのか、太陽が日に日に高い位置を通過するようになるためなのか、2月は空の青を沁(し)みるように感じます。

空の青は、雪に覆われた大地に近いところでは白に近いほど薄い空色なのに、空の高いところほど青の色が濃く、空の芯にいくほど群青色に染まります。その理由が判ってみても、やっぱり不思議です。

旭岳ビジターセンター 菊地 基



群青色に染まった青空と青に浮かんだ旭岳(昨年2月) 旭岳避難小屋付近



## ウズベキスタンのシンボル「ナヴォイ劇場」

国際交流員 ニグマノヴァ・ナルギーザ

出身国を聞かれ「ウズベキスタンです」と答えると、ポカンとした表情になる人によく会います。「パキスタン」「アフガニスタン」と勘違いしている方も多いようです。

中央アジアにはよく似た名前の6つの国々がありますが、「スタン」には国という意味があります。ウズベキスタンはこれら6つの国々の真ん中であり、「ウズベク人の国」という意味です。今月は日本人と関わり深い「ナヴォイ劇場」を紹介します。

この劇場は、第2次世界大戦の終戦後、旧ソ連の捕虜となつて当時ソ連下にあったウズベキスタンに連行されてきた日本人抑留者によって造られました。過酷な環境の中、実直、勤勉に仕事に励み、わずか2年で完成させたといわれています。

20年後、タシケントを震源としたタシケント大地震(1966年4月26日)が起き、首都タシケントの大

半の建物が崩壊した時、街中がれきの山となった中でそれまでと変わりなく凛(りん)として立つ劇場を見て、住民は日本人への畏怖と敬意の念を持つて見上げたそうです。

多くのウズベク人は、子供のころ母親から次のように言われて育ったといわれています。「日本人のように勤勉でよく働く人間になりなさい」と。



ナヴォイ劇場